

福祉教育（福祉教育セミナー・こころプロジェクト実践）

逗子市社会福祉協議

〒249-0005 神奈川県逗子市桜山5-3 2-1

助成事業の概要

1. 第13回福祉教育セミナーの開催

「ふだんのくらしのしあわせをつかむ地域の活動～福祉のまちづくりに向けた福祉教育～」

目的：地域の福祉課題を見つめ、その課題に即した福祉教育実践を、学校を含む地域の中で、どのように作り出していくか、またこれからの福祉教育について、パネルトーク、原田正樹先生によるご講演、グループワークを通して、参加者と共に考えることを目的としている。

日程：平成28年12月27日 13：00～17：00

場所：逗子市福祉会館

内容：

- ①逗子市における地域福祉活動・学習の現状（逗子市社会福祉協議会より）
- ②パネルトーク「福祉のまちづくりへ繋がる私たちの活動」（3団体より）
- ③基調講演「'福祉でまちづくり'にむけた福祉教育」原田正樹先生（日本福祉大学 社会福祉学部 教授）
- ④協議「福祉のまちづくりに向けて」（参加者同士が、発表や講演を受けて自身の活動と照らして話し合う）

2. 福祉教育こころプロジェクト実践（市立3中学校向け福祉教育の授業実践）

学校における福祉教育の実施にあたっては、教員だけで関わるのではなく、福祉の専門職や当事者、ボランティアまた共に暮らす地域住民と連

携して展開していく必要がある。こころプロジェクトチームは、趣旨に賛同いただいた福祉の専門職やボランティア、教育委員会の福祉教育担当者等から組織され、中学校の福祉教育授業作りと実授業目的：

- ①社会には様々な状況の中で生きづらさを抱えた人々がいることを知る。
- ②生きづらさを抱えた人々の様々な特質や目に見えない困りごとを知り、相違点と共に自分の共通点を見出す。
- ③自分自身を受け入れ、様々な人と社会で共に生きていく将来について考える。

日程：

中学1年生向け（2校）

平成28年6月17日・6月23日

中学3年生向け（3校）

平成29年2月21日・24日・27日、3月1日

内容：

各中学1・3年生に向けて下記内容を福祉教育チームの講師が各クラスを担当して実施。

- ・全体講話「あなたのこころ、お元気ですか？」
- ・発達障害に関する講話・事例検討用のDVD鑑賞
- ・疑似体験・ワークシート等
- ・ワーク「自分を大切に思い、相手を大切に思うこと」

（1年生：「いいところ探し」のワーク・

3年生：「短所から長所を見つける」ワーク）

事業の成果

1. 福祉教育セミナー

当日は、61名の地域活動者（自治会関係者・ボランティア団体・サポーター等）や民生委員、福祉専門職、教員等、様々な方に参加いただいた。

主催の福祉教育チームとは、社協職員だけでなく、ボランティア、福祉施設関係者、学識経験者、行政福祉部担当者、教育委員会福祉担当者等と共に立ち上げたチームであり、学校を含む地域における福祉教育について検討を進めてきた。

今回初めて参加した方も多く見受けられ、「ふくし」の見方が変わった、普段の活動との繋がりが・気づきを発見した、多くの学びを得た等、様々な意見があがった。セミナー開催13回目という定着がありながらも、福祉のまちづくりに繋がる視点として、さらに様々な分野の方との連携がこれからも必要であり、福祉教育として全市民を対象として行っていく意義を強く感じた。

2. 福祉教育こころプロジェクト実践

*3年生向けとして、公立中学校全3校の継続実践を行った。また初めて1年生向けとして、2校に実践した。各校各学年とも、実施前にはクラス担任と福祉教育担当の教員向けに授業の説明会を実施し、教員への理解促進、意識啓発と共に生徒に対する授業内容の共有を行った。

*1年生（2校） 生徒数 189名
3年生（3校） 生徒数 365名

*生徒感想

- ・普段、意識していなかったことを考えて、周りの人から理解されるのが難しい人たちの気持ちを考えることは学ぶことが多くあった。
- ・一人で抱え込まず信頼する友人や家族に相談できる環境づくりをすることが大切であると

思った。

- ・障がい者は自分とは違うと差別するのではなく、一人の人間として見るのが大切だと感じた。
- ・自分自身を見つめ直す良い機会になった。相手と関わる時、お互いを見つめ合って生きていこう。
- ・障がいのある人への考え方も前向きになった。自分と違う人も分かるう、知ろうと行動することが大切。
- *1年生に対しては、今後の学校生活での仲間づくり、3年生に対してはこれから新しい社会（学校）へ旅立つエールとして内容を伝えた。今まで知らなかったことや意識していなかったこと、新しい気づき等を感じ取った様子であり、年度当初に実施した1年生に対しては、担当の先生より例年よりも人の気持ちを考えられ、落ち着いて生活できている生徒が多いとの報告があった。
- *今後の課題としては、「自分が発達系の課題を抱えている」と自覚した生徒をどうフォローしていくかについて、学校との連携がさらに必要となる。チームが企画検討し実践を行い、教員はフォローに入る体制の検討も必要である。また小学校からの連続性図る必要性を感じると共に、広く地域の方からの協力・協働実践とし、人員の確保も必要である。

成果の広報・公表

1. 福祉教育セミナー

61名の参加者それぞれの学びを個人または所属団体に持ち帰り、各繋がりを意識していくと共に、地域福祉活動（学習）を振り返り、福祉教育との連動を考えていけるかを参加頂いた方と共にチームとしても検討していく。

また実施の様子や内容の報告はFacebook等を

通じて広く周知した。

2. 福祉教育こころプロジェクト実践

子どもの親世代（若い世代）への啓発と、子どものこころと向き合っていくことを目的として、3年生実践時には、学校と連携し各校とも全体講話を授業参観型とした。また民生委員児童委員や人権擁護委員、ボランティアセンター運営委員等にも周知し、啓発と共に地域の方々との協働実践を展開していくため参加協力をいただいた。実施のプログラム内容や流れ、生徒感想をまとめた報告書は今後の継続実践の参考とすべく、各校の福祉教育担当者に配布を予定している。

通じて広く周知した。

分自身との接点を見出していけるようなプログラムを専門職や地域ボランティアが関わりながら、学校と連携して実施していく。

■ 今後の展開

1. 福祉教育セミナー

毎年開催している福祉教育セミナーも13回目となった。リピーターの参加者もいる中、初めて参加する方も多々見られている。参加者から様々な気づきを得たとの意見もあり、セミナーの開催が目的ではなく、セミナーを通してどんな福祉教育を展開していくか、各々が行っている地域（福祉）活動との連動を視野に入れながら、今後はアウトカムの視点を持ち、実践検討していくことが必要である。

2. こころプロジェクト実践

学校体制の実状により、毎年実施の意思確認を行うことから始まるが、継続した福祉教育実践ができるよう、さらに学校側との連携を深めていく。さらに、現在公立中学校（3校）への実施であるが、私立学校や小学校の福祉学習との連動も視野に入れ、学校単独では取り組みづらい、見えづらい障がい（知的障害や発達障害等）の理解啓発や学校を含む地域で共に暮らしていくこと、自